

技術文書審議タスク の制度変更骨子案

原子力土木委員会
幹事

現状の制度の課題

- ▶ 技術文書審議タスクのメンバー選定、会合開催および運営を担う原子力土木委員会の委員長、副委員長、幹事の負担が大きい。
- ▶ 小委員会やWGの中での有識者による審議と、技術文書審議タスク委員による審議が、両方とも技術審議であるが、原子力土木分野の専門家人口が少ないこともあり、二層の技術審議体制の整備が困難な場合もある。
- ▶ 技術文書審議タスクの対応への負担が大きいことにより、原子力土木委員会委員による意見照会、外部意見照会、公衆審査など、本来重要なプロセスへの対応が手薄になることが懸念される。





原子力土木委員会運営の基本的な考え方である

①客観性・透明性の一層の確保

②社会への積極的な情報発信

を継続できる枠組みが求められる。

制度変更の基本的な考え方

「客観性・透明性の一層の確保」を第一に考えた制度とする。

小委員会、WGが継続的に活発に活動し、「社会への積極的な情報発信」を持続可能とする制度とする。

委員長、副委員長、委員、幹事が交代しても継続して対応可能な制度とする。（親委員会の人事に依存しない制度）

制度変更の基本的な考え方

- ▶ 「プロセスの公開性・透明性」が、審議の信頼性の観点で国際的に重視されている※。
- ▶ 技術文書審議タスクの役割を「技術審査」から「プロセス監査（審議過程の審議、トレーサビリティの審議）」へ移行する。
- ▶ 現行の技術文書審議タスクの役割である技術審議は、小委員会またはWGの活動に含める。

※例えば、OECD/NEA, The Characteristics of an Effective Nuclear Regulator, 2014. 効率的な原子力規制の原則の一つとして、「公開性と透明性」が挙げられており、情報、ステークホルダーの関与、規制プロセスを公開することの重要性が述べられている。

技術文書 審議タスクの 役割変更 (案)

現状

- 小委員会またはWGから提示される基本方針および技術文書原案に対して技術的内容の審議を実施
- 外部意見照会の実施（外部紹介する委員会リストを親委員会に提案、承認を得る。外部委員会に技術文書原案を送付し、意見を聴取）
- 公衆審査の実施

変更案

- 被審議者（技術文書執筆者/執筆グループ）に対して、①技術文書の作成に当たっての議論・審議体制、②審議手続き、③審議スケジュール、を審議プロセス開始前と公開前（最終の原子力土木委員会審議前）にチェックする。不十分なものがあれば被審議者に対して改善を要求する。※
※審議対応（技術内容審議、外部意見紹介、公衆審査）は被審議者が対応する。

技術文書審議タスクによる チェック項目（案）

① 技術文書の議論および審議体制の確認

- ✓ 技術内容審議において、被審議側メンバーと、審議側メンバーとで構成、役割が明確に区別されているか。（公正な審議を行えるよう、審議側メンバーが当該技術文書作成において独立性を担保できているか）
- ✓ 審議側メンバーは、同一業種、同一組織からの参加が過大な構成になっていないか。
- ✓ 小委員会のメンバーの専門性が、当該技術文書の目的、用途、適用の観点で当該技術文書を議論できる構成になっているか。（小委員会のメンバーが、特定の分野の専門家のための偏った構成になっていないかについても確認）

② 審議手続きの確認

- ✓ 技術内容審議、原子力土木委員会審議、外部意見紹介、公衆審査、を実施する計画になっているか。
- ✓ 技術内容審議が、技術文書のボリュームを踏まえて十分な回数で設定されているか。
- ✓ （審議後）技術内容審議、原子力土木委員会審議、外部意見紹介、公衆審査での対応資料（コメント対応表）を公開可能か（トレーサビリティ、公開性の審査）。

③ 審議スケジュール

- ✓ 技術内容審議、外部意見紹介、公衆審査の期間は十分か。

技術資料の作成フローチャート

小委員会/WG

技術資料作成・審議基本方針の策定

技術資料の作成に当たっての議論および審議についての基本方針を技術文書審議タスクに提出。必要に応じて説明。

技術文書審議タスク

①技術議論・審議体制、②審議手続き、③審議スケジュールを確認

技術資料作成・審議基本方針の確認結果を原子力土木委員会に付議
(小委員会/WGに共有)

※技術文書の区分に応じて実施

①技術議論・審議体制、②審議手続き、③審議スケジュールを確認

確認結果を原子力土木委員会に付議

原子力土木委員会

技術資料作成・審議基本方針の審議・承認

技術資料の途中段階での審議 ※

技術資料の発刊可否の審議・承認※
※整合性・社会的妥当性の審議

技術資料原案の作成

技術内容審議の実施

技術文書と審議プロセス実施報告書を技術文書審議タスクに提出。必要に応じて説明。

外部委員会意見照会および公衆審査の実施※

技術文書を公開/発刊/管理

【参考】

OECD/NEA, The Characteristics of an Effective Nuclear Regulator, 2014

効果的な原子力安全規制における、役割・責任と
原則・特性に関して記載した報告書

効率的な原子力規制の原則

Principles for an effective nuclear regulator

- 安全重視と安全文化 (Safety focus and safety culture)
- 独立性 (Independence)
- 能力 (Competence)
- **公開性と透明性 (Openness and transparency)**
 - 情報、ステークホルダーの関与、規制プロセスの公開

効率的な原子力規制のための特性

Attributes of an effective nuclear regulator

- 明確で一貫した規制 (Clear and consistent regulation)
 - 明確な枠組みと要件
- 一貫性と均衡を保った意思決定 (Consistent and balanced decision making)
 - 明確かつ公平な意思決定
- 説明責任 (Accountability)
 - 決定に対する説明責任
- 強固な組織能力 (Strong organizational capability)
 - 十分なリソース、強いリーダーシップ、優れた管理システム
- 継続的な改善
 - 継続的な改善のためのピアレビューと国際的な関与が重要。
- 効率性 (Efficiency)
- 信頼、信用、尊重 (Credibility, trust and respect)
 - 行動の結果として、信頼、信用、尊重される組織